

向山庭園の現状とあり方について

1 向山庭園の沿革

昭和 55 年 5 月 1 日に開園した向山庭園は、昭和 4 年から昭和 6 年にかけての浜口内閣時代の江木鉄道大臣邸であったといわれている。付近の住宅は昭和 53 年 12 月 1 日に練馬区の「みどりの保全モデル地区」の第 1 号に指定された城南住宅組合として知られ、閑静な住環境を形成している。

当庭園の建設にあたっては、当初、建設会社によるマンション建設計画があり、それに対する反対運動から、当地の環境を生かした自然公園建設の陳情が城南住宅組合等から出され、単に集会、娯楽機能を中心としたものではなく、文化教養を主眼とし、情操を高めるために役立つ純文化的な施設として整備が行われた。

この地は、大正 12 年の関東大震災まで、草や木に覆われたところであったが、その直後に住宅化の話が進み、大正 13 年に 40 余名の名で誕生した城南田園住宅組合の借用地となり、昭和 2 年の豊島園駅の開通後、宅地化が進められた。また、この付近から北側の豊島園にかけての一带はかつて矢の山といわれ、中世豊島氏の一拠点であった練馬城址としても知られている。

2 向山庭園の現況

- (1) 所在地
向山 3-1-21
- (2) 開設日
昭和 55 年 4 月 1 日（開園日は昭和 55 年 5 月 1 日）
- (3) 敷地面積
2,613.64 m²
- (4) 建築面積
母屋 木造平屋 320.89 m²
茶室 木造平屋 28.98 m²
- (5) 延床面積
343.24 m²
- (6) 施設内容
母屋 和室 3（10 畳、12 畳、20 畳）

茶室 和室 1 (8 畳)
※駐車場・駐輪場なし。

- (7) 施設運営
指定管理者 アゴラ造園(株) (平成 18 年度～21 年度)
- (8) 開園時間
午前 9 時～午後 9 時 30 分 (庭園散策は午後 5 時まで)
- (9) 休園日
年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)
- (10) 団体利用方法
利用希望日の 3 か月前から申込受付を行っている。利用料は下表のとおり。

利用区分	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (17:30～21:30)
茶室 (8 畳)	600 円	800 円	800 円
和室 1 (10 畳)	600 円	800 円	800 円
和室 2 (12 畳)	900 円	1,200 円	1,200 円
和室 3 (20 畳)	1,200 円	1,600 円	1,600 円

3 向山庭園の利用実績 (平成 20 年度実績)

- (1) 集会施設機能
- ① 利用者数 : 2,540 団体、19,013 人
※ 地域集会所平均 : 1,382 団体、16,344 人
- ② 団体活動内容 (19 年度)
茶会 37.1%、囲碁 8.2%、会議 7.6%、その他 47.1%
※その他は謡曲、書道、舞踊、気功等。
- ③ 利用団体の内訳 : 区内 7 割、区外 3 割
- ④ 年間施設利用率 : 58% (夜間利用を除く利用率 66.8%)
※地域集会所平均 : 45%
- (2) 文化学習機能
- ① イベント
アジサイ祭り (茶会、フラワーアレンジメント教室など)、七夕祭り (竹の花入れ教室、切り絵教室など)、月見会 (ミニ盆栽教室、切り絵教室、抹茶の提供など) など 10 事業を実施。参加 399 人。
- ② クラブ活動の運営サポート
月 2 回 (数寄茶会、雅楽多倶楽部、ママと一緒になごみ空間の 3 クラブ)
- (3) 公園施設機能
庭園参加者実績 : 6,693 人 (18.8 人/日)

- 庭園ボランティア：登録 8 名
- (4) 避難拠点機能
地域防災計画上の臨時的避難所に想定

4 向山庭園の現状と課題

練馬区立向山庭園は、区民の文化の向上に寄与する目的で昭和 55 年に開設され、主に茶道や囲碁、謡曲、書道など、区民が文化活動を行う場として利用されている区内唯一の純和風の区立施設である。自然の地形を生かした庭園内は、樹木に囲まれ、中心部にはかつて湧水があったことから池が設けられており、区民の憩いの場として利用されている。平成 20 年度には 1 万 9 千人の施設利用者と 6 千人の庭園参観者が訪れている。

しかしながら、開設から 29 年が経過し、木造の母屋、茶室には老朽化と地盤沈下による建物の傾きが生じており、地盤沈下の進行により、建物の補強のみでは抜本的な対策とならないことが判明した。

このほか、建物や庭園が現在のバリアフリー基準（ユニバーサルデザイン）などに対応していない、ブロック塀が破損している、庭園の池の水量が低下し、適切に管理ができなくなっているなど、施設の不具合が顕著になってきている。

このため、区では、平成 19 年 3 月策定の練馬区耐震改修促進計画に基づく耐震診断結果を踏まえ、平成 21 年 3 月に策定された耐震化整備プログラムに基づき、母屋、茶室の改築および庭園の改修を行うこととした。今年度策定予定の練馬区長期計画（平成 22 年度～26 年度）においても、向山庭園の改築について計画化する予定である。

5 向山庭園改築の方向性

日本的情緒が豊かな庭園をみどりあふれる憩いの場として、また、集会施設機能、文化学習機能、国際交流機能等を併せ持つ文化施設として施設整備を行う。

改築を契機に、施設の利用しやすさを向上させるとともに、みどり豊かな周辺環境を持つ立地と駅や区役所からの交通利便性を活かし、文化芸術活動をはじめとする区民の自主的活動を活発化し、練馬区の新たな魅力を引き出す文化拠点としての役割を果たすことを目指す。

整備に当たっては、向山庭園の開設の経緯等を踏まえ、周辺の住環境との調和を図るとともに、現在の土地の形状を活かすなど、特色ある施設形態を維持することを基本とする。茶会や囲碁、謡曲、書道、舞踊など、日本文化に関わりのある文化芸術活動での利用が多いことを踏まえ、区民相互の活動

や交流、憩いの場としての機能を引き継ぐとともに、和風施設であるという特色を活かし、国際交流や外国からの訪問団など区への来賓者を案内できる機能を担える施設とする。

また、駐車場やアプローチの整備等のバリアフリー化を図り、誰もが日本文化に気軽に触れる機会を提供できる施設づくりを目指す。

6 向山庭園改築の基本的内容

(1) 建物…改築（建て替え）とする。

次の基本的な考え方により全体の施設構成をレイアウトする。

- ① 耐震性および耐久性の向上を図る。
- ② 畳に座ることが困難な利用者のための対応など、ユニバーサルデザインの視点から、利便性の改善を図る。
- ③ 利用者から来賓者まで幅広くもてなす質の高い空間とする。
- ④ 練馬区環境基本条例に則し、環境・省エネルギーに配慮した施設・設備とする。特に、施設のメンテナンス、ランニングコスト等に配慮し、効率的で環境負荷の少ない施設建設・運営に配慮する。
- ⑤ 周辺の住宅地との調和を図る。

(2) 庭園…現在の良い点を残しつつ、改修を行う。

次の基本的な考え方により全体の施設構成をレイアウトする。

- ① 園路段差の解消など、ユニバーサルデザインの視点から、利便性の改善を図る。
- ② 大木は可能な限り保全する。
- ③ 現状の落ち着いた雰囲気を維持し、建物と庭園の関係を調和させる。
- ④ 近隣の環境に配慮しつつ、現在よりも庭園の開放感を高める。
- ⑤ 水環境の向上と、季節変化を楽しむことができる生態系を目標とする。

(3) 施設の運用や利用方法の改善

- ① 予約方法や利用区分など、活動の場としての利便性の改善を図る。

7 改築のスケジュール

21年度	懇談会開催および基本構想の策定、基本設計
22年度	実施設計、解体および地盤改良等
23年度	工事
24年度	オープン

8 工事予算額

約4億円 (22年度解体および地盤改良を含む)

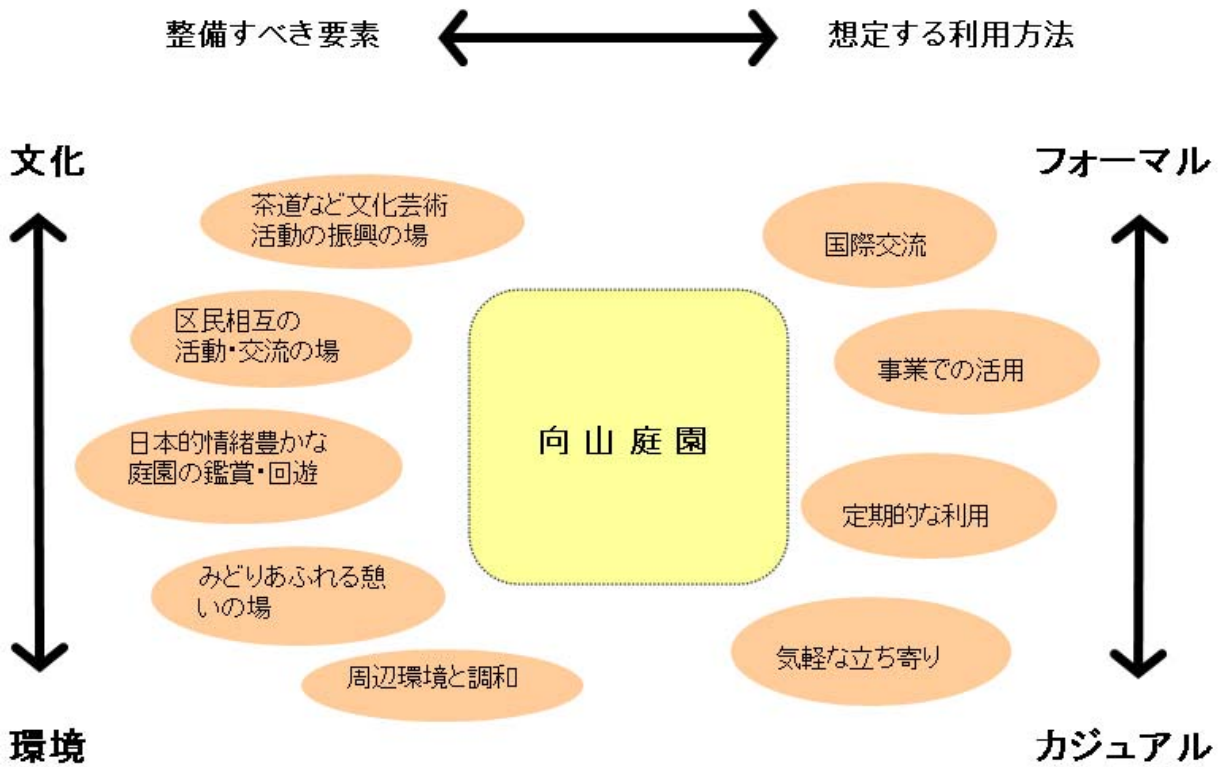
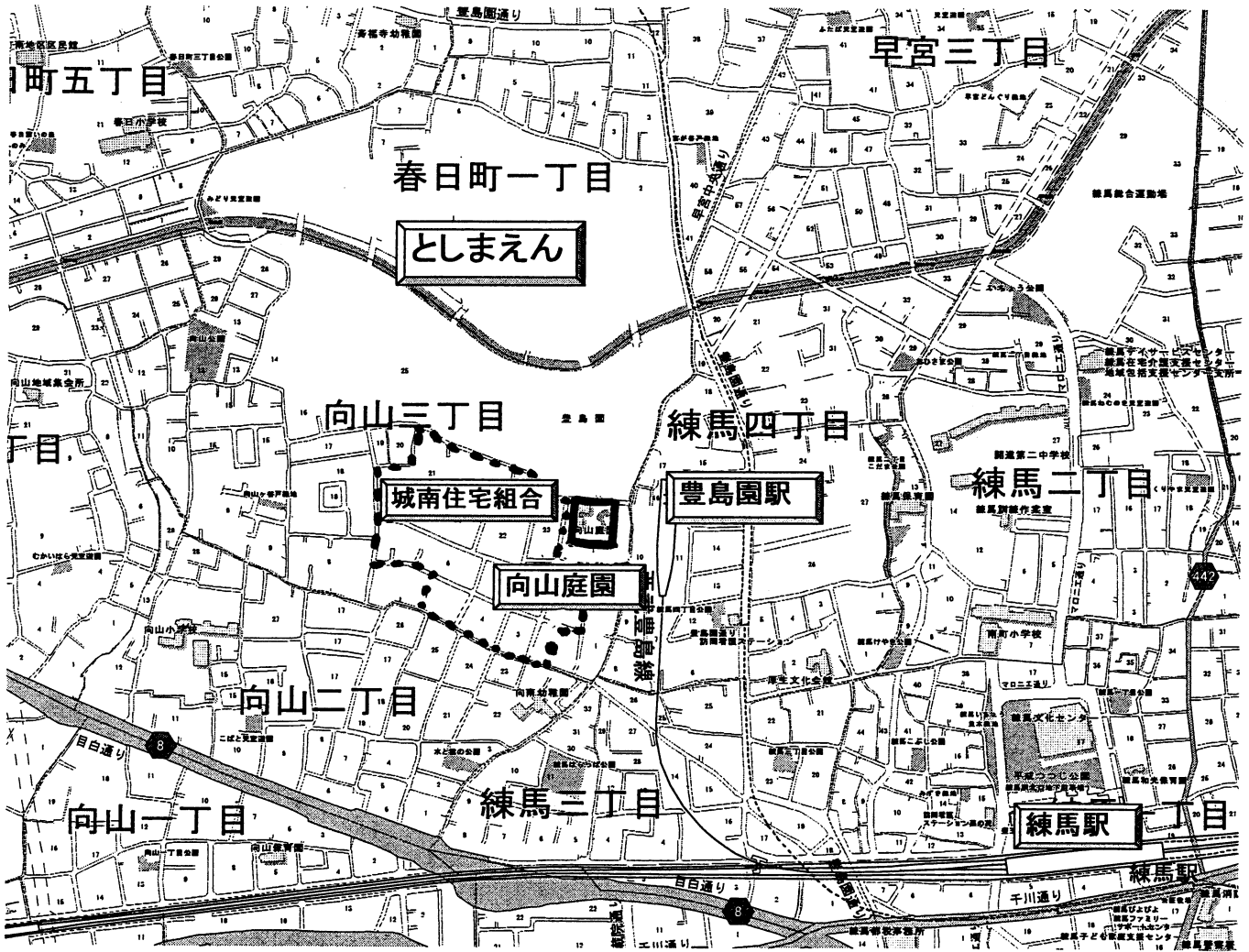
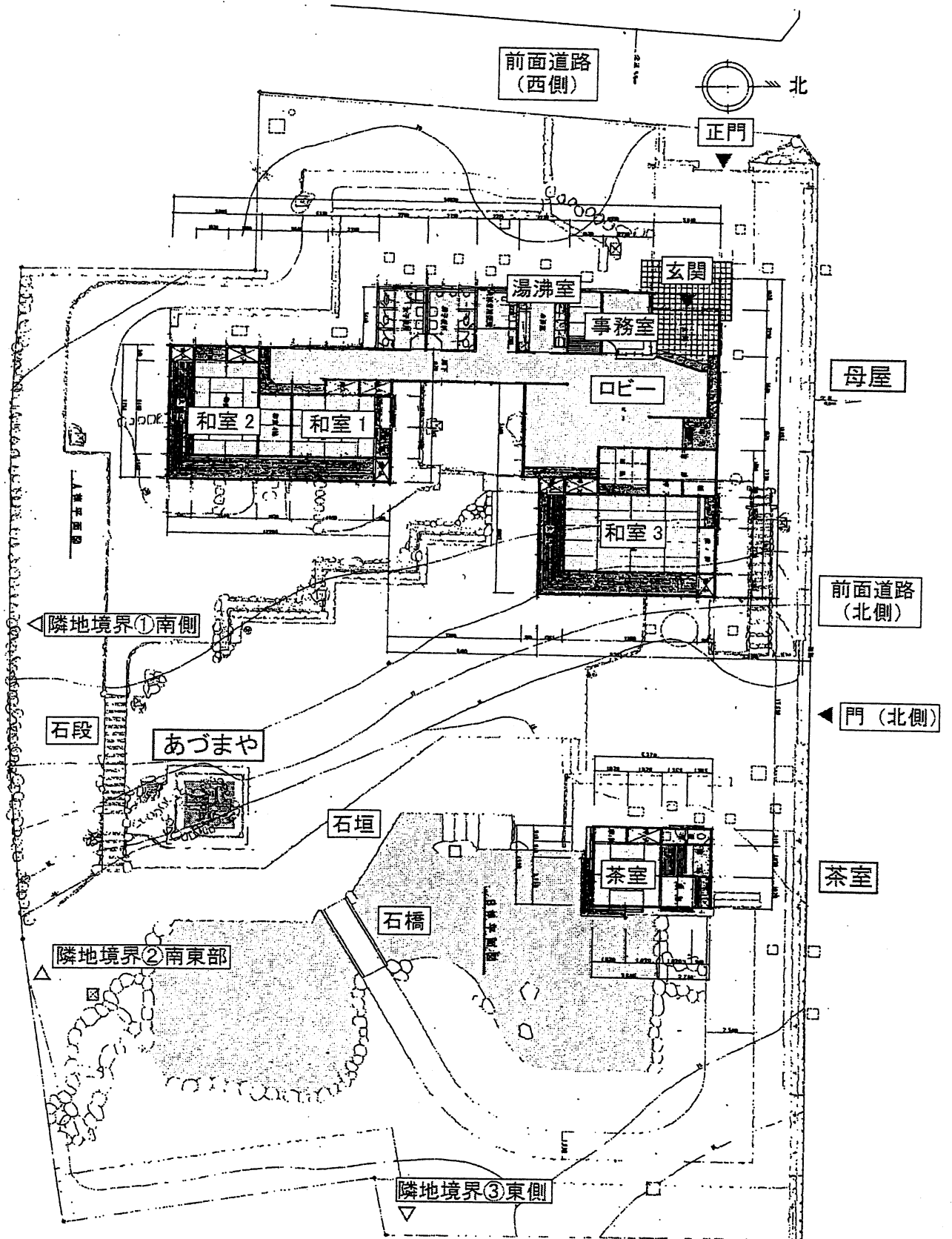


図1. 向山庭園のあり方の概念図

向山庭園周辺案内図



向山庭園 現況配置図



現況写真



前面道路（北側）



前面道路（西側）



正門



ロビー



和室 2



和室 3



和室 1 外観



湯沸かし室

現況写真



茶室



門（北側）



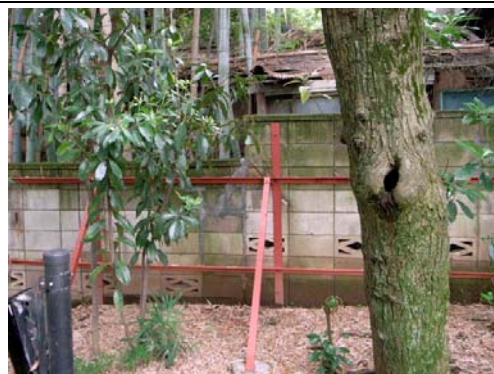
池・橋



あづまや



石垣



隣地境界①南側



隣地境界②南東部



隣地境界③東側